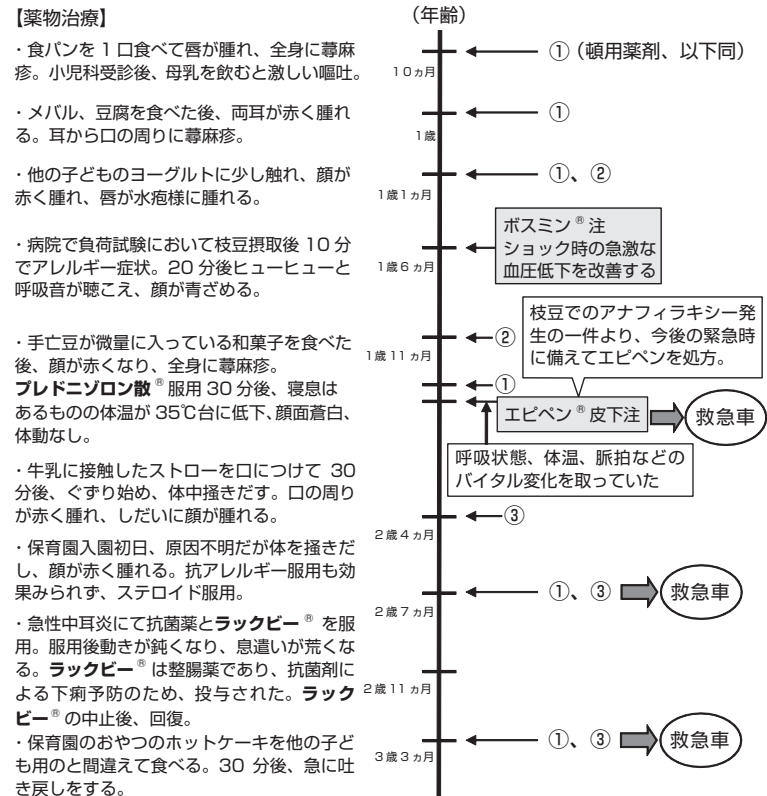


図 5.5 食物アレルギーに対する治療の例



【定期処方薬】

- ・クロモグリク酸 Na (インタール細粒)：ケミカルメディエーター遊離抑制剤
 - ・モンテルカスト Na (シングレア細粒)：ロイコトリエン拮抗剤
 - ・スプラスタトシル酸塩 (アイビーティードライシロップ)：Th2 サイトカイン拮抗剤
 - ・ブデソニド (バルミコート吸入液)：副腎皮質ホルモン剤
 - ・エピナスチン塩酸塩 (アレジオンドライシロップ)：抗ヒスタミン H₁ 拮抗剤
- 数種のステロイド外用剤を使い分けて蕁麻疹に対処し、乾燥肌には白色ワセリンを塗布している。

【頓用薬剤】

- ① プレドニゾン (プレドニゾン散)：副腎皮質ホルモン剤
 - ② ヒドロキシジン塩酸塩 (アタラックス-P細粒)：非ベンゾジアゼピン系抗ヒスタミン H₁ 拮抗剤
 - ③ エピナスチン塩酸塩 (アレジオンドライシロップ)：抗ヒスタミン H₁ 拮抗剤
- (以下は適宜使用薬剤)
- プレドニゾン (プレドニゾン散)：副腎皮質ホルモン剤
 - プロカテロール塩酸塩水和物 (メプチン吸入液およびメプチンドライシロップ)：β₂アドレナリン受容体刺激剤
 - セチリジン塩酸塩 (ジルテックドライシロップ)：抗ヒスタミン H₁ 拮抗剤
 - アドレナリン (エピベン注射液)：カテコールアミン系薬剤

図 5.6 エピベン®注射液使用の流れ



練習問題

問1 小児の特徴として正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 患児の年齢によって薬用量が異なる。
 - b. 新生児では、生体の水分が全体の約60%である。
 - c. 新生児では、成人に比してアルブミン値が低い。
 - d. フェニトインの有効血中濃度は、成人と異なる。
- 1) (a,b,c) 2) (a,b,d) 3) (a,c,d) 4) (b,c,d) 5) すべて正しい

【解】3

【解説】新生児では、生体の水分は全体の約80%である。